

# 市原委員資料

# つくば市の竜巻被害と情報利活用の現状



平成24年5月31日  
つくば市長 市原健一

# 新がんばる商店街77選に選定された『北条商店街』

被災前



被災後



# 被災直後の北条商店街



# 大きな被害を受けた集合住宅と 手前の戸建住宅2棟(うち1棟は全壊)



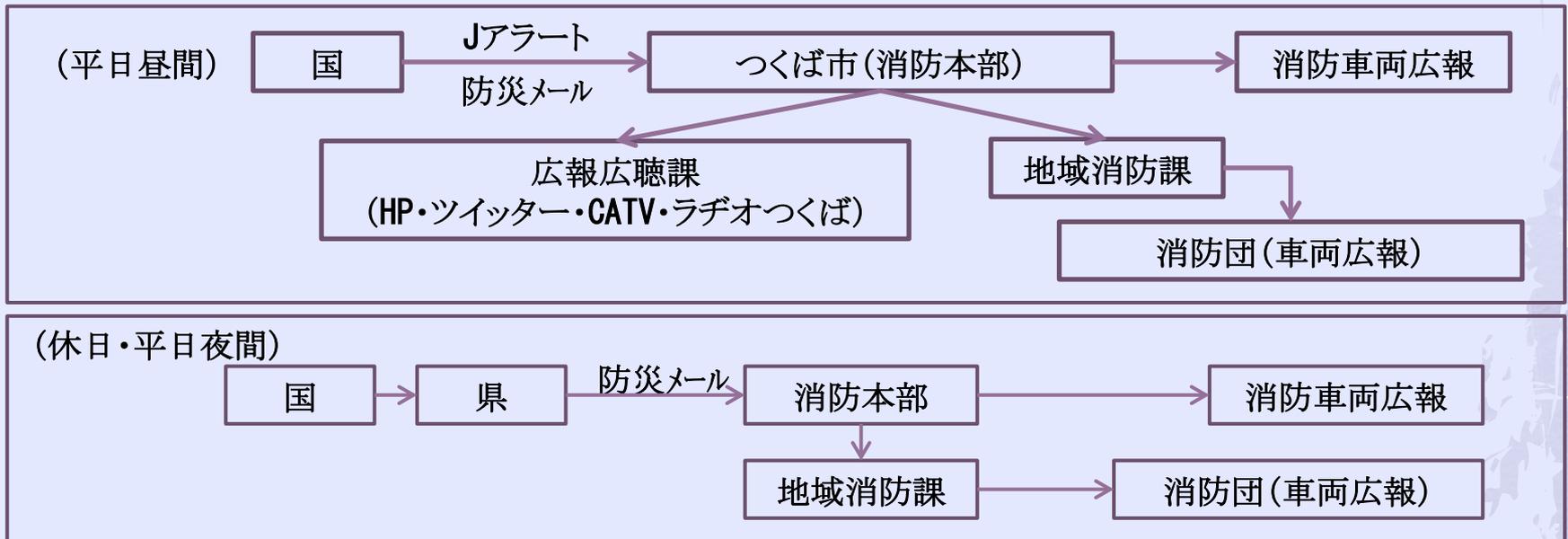


# 竜巻注意情報の現状

- ◆ 竜巻に対する国民の意識が低い
- ◆ 注意情報の対象範囲が茨城県全域である
- ◆ 注意情報の精度が低い

2008年3月27日 気象庁が竜巻注意情報の発信を開始以降、茨城県を対象にした情報は、4年間で38回発信。つくば市では、今回が初めて適中(適中率約2.6%)

- ◆ 注意情報であり、注意報や警報ではない
- ◆ 国からの注意情報は、市町村の判断で住民に伝える
- ◆ つくば市の場合、市民への伝達方法が緊急性に欠ける



# 竜巻注意情報の課題

- ◆ 注意情報に対する国民の認知度が低い(啓発不足)
- ◆ 対象範囲が広すぎる(県全域)
- ◆ 適中率が低く、必要以上に市民を動揺させる
- ◆ 竜巻情報の性質が地震, 大雨, 洪水, 雷などの情報と異なる
- ◆ 緊急情報の伝達判断を市町村に委ねている
- ◆ つくば市の場合, 全市民に緊急情報を伝えるためには, 多額の初期投資と維持管理費が必要である

# 情報伝達の理想像

- ◆ 国民の竜巻に対する認識を高め、竜巻発生の前兆を啓発する

【竜巻発生の前兆】 ・黒い雲が発生し、突然暗くなる ・雷鳴、雷光  
・冷たい風 ・大粒の雨やヒョウ

- ◆ 対象範囲を絞り込む
- ◆ 精度の飛躍的な向上
- ◆ 地震情報と同様に緊急性を重視する
- ◆ 国の判断で対象地域にいる国民に伝える

